

❖団体名	(特活) CWS Japan
❖ASC2012実施日	2015年5月22日

❖セルフチェック結果

指針項目	項目数	実現している項目数	実現していない項目数
組織運営基準	15	15	0
事業実施基準	11	11	0
会計基準	11	11	0
情報公開基準	4	4	0
合計	41	41	0

❖アカウントビリティへの考え方

元来、人道支援の国際基準であるSphereやHAPを日本で広める取組みを積極的に行っており、アカウントブルな組織・事業運営は優先事項として捉えています。有志で立ち上げたQuality and Accountability(Q&A)ワーキング・グループ（その後JQANとして設立予定）にも積極的にに関わり、組織内外において社会からより信頼される組織形成を目指し、Q&Aを常に意識しであることと活動しています。

❖アカウントビリティ向上の取組み紹介

- 自己財源に関して「どの財源のどの部分を寄付金扱いするのか」を組織内で明確に定義し、実態に則した情報公開を心がける。また、内部危機対応能力（特に有事の事態に対する取組み）を強化する。
- CWS Japanが関わる様々なネットワーク活動において、学生や有志が参加し易い環境の提供に努め、ボランティア・インターン制度を柔軟に見直してゆく。また同時に、豊富な社会経験とスキルを持ちながらも第一線から退いた人材の活用に取り組んでいる。
- パートナー団体などを通じ、アンケート等を通して受益者から事業へのフィードバックを得るよう努めている。

❖上記取組みの実施状況

- 理事にASCを行った上での組織内アクションポイントを説明した。7月の理事会において決定事項を明確にし、組織としての意思決定を行う。内部危機対応能力の強化に関しては、現在それぞれが持っているパスワード（例えば銀行のウェブで承認する際に使うパスワード）を万が一の場合に備えて、金庫等に保管しておく。同じ理屈で、現在は監事が1人で、定款にも「監事は1名置く」と記載しているが、もし現監事に何かがあった場合、組織の監査が出来ず、決算書類等を東京都に送る事が滞る為、監事を2名置く事を理事会で検討する。また、マイナンバー（個人番号）取扱いに関しても、規定を現在整備中。
- 日本キリスト教協議会と設置するエキュメニカルプラットフォーム作りの中で、大学をはじめとする教育機関等とも積極的に協力していく。
- 今まで行ってきたパートナーシップ評価、事業評価等を継続して行い、頂戴したフィードバックに対する対応案をオープンにコミュニケーションする。